

『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

『未来への投資』の政策

- 1 紀の国わかやま国体・大会に向けてスパート
- 2 地域経済を支える産業の強化
- 3 農林水産業の競争力強化
- 4 魅力ある地域づくり
- 5 成長を支える社会インフラ等の整備
- 6 教育と文化の振興

1 紀の国わかやま国体・大会に向けてスパート

①男女総合優勝に向けた競技力の向上

◇スポーツ競技力向上対策(7事業) 739,970(572,153)

〈主な事業〉

- ・トップアスリート育成
〔競技団体の選手強化事業(遠征費や指導者の招へい等)を支援〕
- ・ハイスクール強化校指定
〔強化拠点高校の活動を支援、優秀な海外からの指導者を招へい〕
- ・きのくに医・科学サポート
〔トレーナー派遣やメディカルチェックにより選手のコンディションをサポート〕
- ・競技力向上対策本部運営
〔ボートやカヌーなどの特殊競技備品を高校等に配置〕

◆スポーツファーマシストの養成 1,610(-)

〔うっかりドーピングを防止するための薬剤師をスポーツファーマシストに養成〕

②国体関連施設の整備

◇三四六総合運動公園の整備促進 897,000(721,947)
〔三四六運動公園(田辺市内)の設備及び周辺環境を整備〕

◇セーリング関連施設整備 252,310(294,490)〈再掲〉
〔和歌山マリーナにディンギーハウス新棟などを整備〕

③開催の着実な推進と和歌山の元気づくり

◇紀の国わかやま国体の開催準備 10.6億円(2.6億円)

◇紀の国わかやま大会の開催準備 179,792(52,936)

〈主な事業〉

- ・PR拠点「きいちゃんステーション」の設置運営
〔JR和歌山駅周辺などにPR拠点を設置し、両大会関連の情報や和歌山の魅力を発信〕
- ・開催気運醸成のための県民運動の推進
〔県民絵参加による健康づくり運動や絵画コンクールなどを各地で展開〕
- ・花いっぱい運動の促進
〔会場、主要道路や駅などを花や緑でいっぱいにする運動を促進〕
- ・会場運営等をサポートするボランティアの養成
〔会場運営や聴覚障害のある方をサポートするボランティアを養成〕
- ・国体競技別リハーサル大会の運営支援
〔市町村や競技団体が主催するリハーサル大会の実施を支援〕

④国体・大会を契機とした「おもてなし力」の向上

◇和歌山おもてなしトイレ大作戦 855,678(153,570)〈再掲〉
〔観光地等への洋式トイレの導入、温水洗浄便座等の設置を推進〕

◇和歌山おもてなしタクシー大作戦 2,692(7,740)〈再掲〉
〔全ドライバーと全事業者に接客・接客研修を実施し、優良ドライバーに称号付与〕

男女総合優勝に向けた競技力の向上

平成26年度：739,970千円
(572,153千円)

〔男女総合
成績〕

18位

平成25年
東京国体

14位
(目標)

平成26年
長崎国体

優勝
(目標)

平成27年
和歌山国体

■ 競技力向上対策

徹底した選手強化（トップアスリート育成事業・ハイスクール強化校指定事業等）

- 競技団体が実施する遠征・合宿等を支援
- 全国トップレベルの指導者を招へい
- ターゲットエイジである中学生・高校生の集中強化
- スポーツ国際交流員（海外からの指導者）による強化 等

総合優勝できる
選手を育成

医科学サポートの充実（きのくに医・科学サポート事業等）



- 国体や強化練習へのトレーナー派遣
- メンタルトレーニングや映像分析、暑さ対策などのサポート 等

総合優勝に向けて
側面支援

両大会を契機とした和歌山の元気づくり

平成26年度：12.4億円
(3.1億円)

県民総参加に向けた取組

★ 花いっぱい運動の拡大

【プランター栽培数：H25 約4,000基 → H26 約10,000基】

・育成段階に応じて担い手を交代する「花のリレー（育てる → 咲かせる → 飾る）」の拡大

★ クリーンアップ運動の強化

【参加者数：H25 約20,000人 → H26 約30,000人】

・きれいな和歌山でお迎えするため県内一斉クリーンアップデー設定等による清掃活動の強化

★ ボランティアの養成

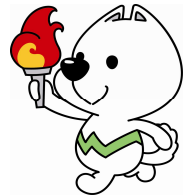
【募集人数：運営ボランティア約4,900名、情報支援ボランティア約600名】

・おもてなし力向上を含めた運営ボランティア研修や情報支援ボランティア養成講座等の開催

★ 開催気運醸成イベントの実施

・オープニングプログラム出演者選定に向けた「ダンスコンテスト」等の開催

県民力の発揮



元気な和歌山の実現

産業活性化に向けた取組

★ きいちゃんステーションの設置運営

・きいちゃんグッズの販売（100種類以上）、両大会情報・観光情報の発信、特産品のPR 等

★ 県産品の積極的活用

・紀州漆器を活用した記念品（参加章・記念章・大会メダル）、保田紙を活用した表彰状の作製 等

★ 開催を契機とした新商品開発・販売支援

・協賛企業等への県食材を活かした商品開発働きかけ、プレミアム和歌山商品へのきいちゃんの使用促進 等

魅力の発信

『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

2 地域経済を支える産業の強化

①中小企業等の成長力の強化

〈ものづくりの革新〉

◆産学共同研究支援 5,397(-)

〔技術移転機関のネットワークを活かした県内企業と研究者の仲介により共同研究を促進〕

◇産学官連携による技術革新の促進 23,124(23,880)

〔産学官等の連携体による共同研究に資金支援〕

◇先駆的産業技術の開発 217,088(184,291)

〔先端的産業分野で研究開発に取り組む県内企業を支援〕

◇県工業技術センターによる技術力向上支援 131,020(176,212)

〔県工業技術センターによる研究開発など県内企業への技術支援を実施〕

◇地場産業のブランド力強化 108,345(110,185)

〔企画・提案型事業への転換をめざす事業者の試作品開発から販売までを支援〕

◇わかやま中小企業元気ファンド

〔地域資源を活かした新商品開発や研究成果の事業化を支援〕

◇わかやま農商工連携ファンド

〔農林漁業者と中小企業者の連携による商品開発や販路開拓を支援〕

〈次世代人材の育成・経営力の強化〉

◇わかやま塾の開講 5,500(3,600)

〔各界で活躍している専門家を招き、将来の和歌山を支え、世界には羽ばたく人材を育成〕

◇わかやま産業交流サロンの開催 1,199(1,199)

〔経営者、研究者、行政関係者等の相互交流を促進〕

◇中小企業の資金繰り支援 920.1億円(932.1億円)

〔先端設備の導入など新事業に挑戦する事業者等への資金を充実〕

〈市場開拓の促進〉

◇プレミア和歌山のブランドイメージの強化 34,582(33,630)

〔著名人の発信力を活かしたPRなど県推奨品の販売を促進〕

◇県内企業の海外展開支援 23,238(23,055)

〔海外見本市等への出展を支援〕

②新エネルギーの推進

◇メタンハイドレートの賦存調査の実施 11,215(-)

〔国の本格調査の誘致に向け、和歌山沖の表層型メタンハイドレートの賦存状況を調査〕

◆海流発電の実証フィールドの誘致 4,371(-)

〔黒潮による発電に関心を持つ企業の実証研究プロジェクトを誘致〕

◇住宅用太陽光発電設備の導入促進 29,600(29,600)〈再掲〉

〔住宅用太陽光発電設備の導入を支援することで、再生可能エネルギーの利用と、家庭部門におけるCO2排出量の削減を促進〕

③雇用対策の推進

◆高等学校就職支援プロジェクトの推進 22,695(-)

〔県立高校に就職指導員を設置し、生徒や教員に必要な助言や指導を実施〕

◇緊急雇用創出事業の推進 15.0億円(20.4億円)

〔失業者の一時的な雇用や就業機会の創出及び在職者の処遇の改善を支援〕

④企業立地の促進

◆あやの台北部用地の開発 23,670(-)

〔橋本市、南海電気鉄道(株)、県の3者で工業用地を共同開発し、企業立地を推進〕

◇企業立地による地域産業の活性化 19.0億円(14.2億円)

〔新規立地する企業等への奨励金の支給や用地取得、工場建設等に必要な資金を融資〕

経済を支える産業の強化

創業支援

- ・起業家に対し、創業に必要なオフィスを低廉な価格で提供

技術革新による産業技術力の強化

- ・県内企業の先駆的な技術の研究開発や産学官連携で取り組む共同開発を支援

販路開拓

■商談機会の創出

- ・国内、海外の展示会への集団出展及び商談会の開催

■地域資源を活用したものづくりの促進

- ・わかやま中小企業元気ファンド
- ・わかやま農商工連携ファンド

■プレミアム和歌山

- ・首都圏の百貨店等での販売促進を展開



和歌山県優良県産品推奨制度

プレミアム和歌山

企業立地の促進

- ・平成18年12月以降の誘致企業数 120件

ひとづくり

- ・世界に羽ばたく人材を育成する「わかやま塾」の開催
- ・地元企業と工業高校の連携によるものづくり人材の育成
- ・大学生等のUターン就職の促進
- ・若者の自立支援 「With You」 「地域若者サポートステーション」

産学共同研究支援

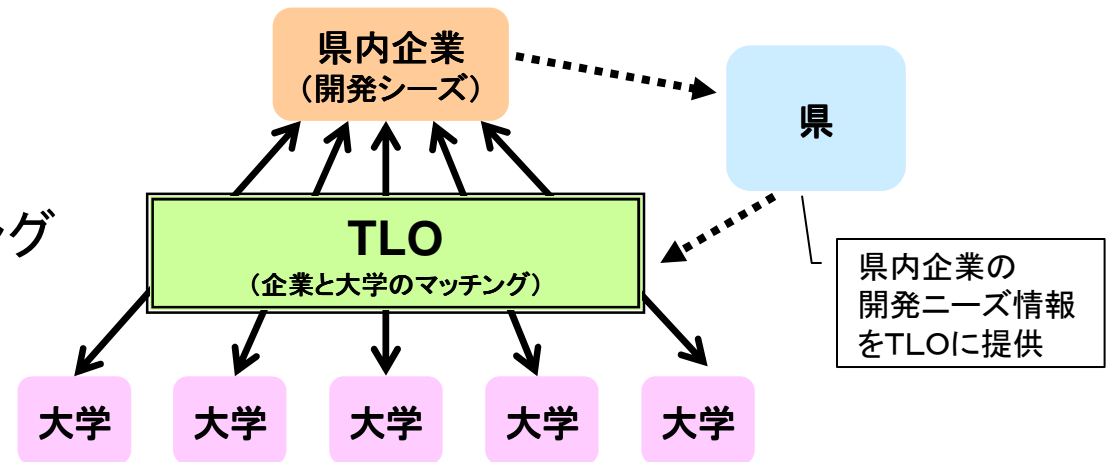
平成26年度：5,397千円
(新規)

【課題】

- ・ものづくり企業にとって、絶えず技術革新を続けていくことが最重要
- ・イノベーションの元となるアイデアの多くは、
技術者と研究者が技術知識等の情報交換から生まれるため、産学連携は今後の成長のカギ
- ・しかし、企業、大学共にお互いを知らないままとなっている状況

技術移転機関「TLO」を活用し、
県内企業の「開発ニーズ」と
大学研究者の「技術」をマッチング

共同研究の開始・新事業の創出へ



TLO (Technology Licensing Organization) とは…
大学の研究者に研究成果を特許化し企業に技術移転する法人

プレミアム和歌山のブランドイメージの強化

平成26年度：34,582千円
(33,630千円)

制度発足5年が経過した「プレミアム和歌山」のさらなるイメージアップを推進

ブランド化の推進

平成25年9月 残間里江子 **新** 委員長就任

コンセプト：「*Communication* (人とのつながり)」 人脈を活用したブランド化を促進

● 事業内容

- ・著名人の情報発信力を活かして、プレミアム和歌山推奨制度の認知度とイメージアップを図る
- ・有名ホテルと提携した「プレミアム和歌山」推奨品のオリジナルメニューを開発・提供 など

販売促進戦略

プレミアム和歌山等の新たな販売促進を展開

- プレミアムわかやま紀州館(仮称)の設置
 - ・毎週土日、首都圏に常設販売ブースを設置することで新たな販売機会を創出
- プレミアム和歌山等の新販売ルートの開拓
 - ・首都圏の高級百貨店等への商品提案活動
 - ・百貨店ギフトや通販サイト、カタログ販売会社とのタイアップによる販路拡大

新エネルギーの推進

平成26年度：45,186千円
(29,600千円)

■ 県内の新エネルギー関連施設の導入状況（2014年1月時点）

	稼働中（出力）	稼働中（基数等）	計画中（出力）	備考	平成24年度の実績は、 県内電力消費量 約653万MWhに対して、 新エネルギー発電量は 約16万MWh（割合：約2%） [参考] 全国の新エネルギーの電力 構成比率は約1.6%
メガソーラー	1万4千kW	10箇所	7万6千kW		
風力	7万5千kW	56基	14万2千kW	近畿で1位	
小水力 （1千kW未満）	1千kW	6箇所	190kW	農業用水を利用した小水力は 近畿では島ノ瀬ダムのみ	
バイオマス熱利用	—	39基	—	木質パウダーは全国初	
計	9万1千kW	—	21万8千kW		

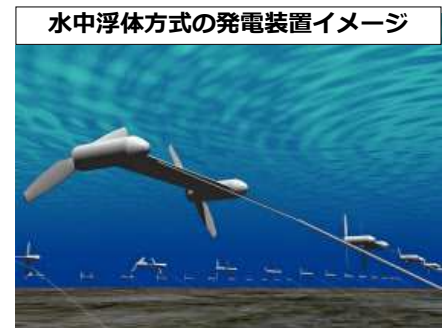
海洋エネルギーの開発

● 表層型メタンハイドレート

- ・潮岬沖において県漁業調査船を用いたメタンハイドレートの賦存状況調査を実施
→ 調査船等による広域調査、詳細調査を実施して国の本格的調査を誘致

● 海流発電

- ・大きなポテンシャルを持つとされる「黒潮」の流れを利用した海流発電の活用を検討
- ・「黒潮発電」に関心のある企業を誘致し、海流発電の実現に向けた取組を推進



出典：株式会社IHI ほか
プレスリリース資料

太陽光発電システムの普及促進

● 住宅用太陽光発電設備の導入促進

- ・年間の日照時間が長い本県の地域特性を活かした自然エネルギーの利用促進を図るため、
住宅用太陽光発電設備の導入補助を**継続して実施**

高等学校就職支援プロジェクトの推進

平成26年度：22,695千円
(新規)

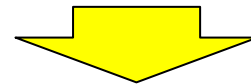
就職希望者の多い県立高校に就職指導員を配置し、就職指導や企業分析を強化することにより、就職内定率を向上

現状

●就職内定率全国ワースト2位 89.9% (平成24年度)

【参考】

全国平均 95.8%



教員の就職指導力を強化し、生徒の就職意欲を向上

就職指導員 [民間企業経験者等] を10名配置

■ 「就職力」の向上

- ・生徒に対し、企業側の視点からの的確なアドバイスを実施
- ・就職に有利な資格取得や社会人マナーの定着を支援

■ 就職支援体制の充実

- ・求人を開拓するため、企業訪問を一層強化
- ・これまでの経験や企業訪問により得たノウハウを教員に継承

■ 早期離職の防止

- ・応募前職場見学の機会の拡充
- ・卒業生の就職先へのフォローアップ訪問

あやの台北部用地開発

平成26年度：23,670千円
(新規)

県、橋本市、南海電気鉄道(株)の3者で
ニーズの高い大規模内陸型工業用地を共同開発し、企業誘致を推進

和歌山県橋本市 あやの台北部用地(仮称)

概要

【開発予定地】 橋本市隅田町

【地権者】 南海電気鉄道株式会社 他

【有効土地面積】 約70ha

【事業手法】 土地区画整理事業

【総事業費】 約47億円

【スケジュール】

平成26年度～ 基本設計、
環境影響評価等

平成29年度 企業用地の造成開始



『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

⑤観光産業の強化 14.0億円(6.8億円)

わかやまリレーキャンペーンの積極展開

◇和歌山デスティネーションキャンペーン

〔世界遺産登録10周年にあたる本年に全国各地で観光イベントの開催〕
・観光商品、おもてなし、2次交通の強化
・主要地域でのプロモーション
・ポスター全国掲出、公式ウェブサイトでの案内

◇高野山開創1200年誘客キャンペーン

〔高野山が開かれて1200年となる来年に向け空海や高野山の魅力PR〕
・わかやまDCでのPR、各種事業での露出推進
・四国八十八箇所1200年(H26)との連動

◇伊勢から熊野誘客キャンペーン

〔式年遷宮の翌年効果と紀勢道南進効果を活かし、東海圏をメインターゲットとした誘客キャンペーンの展開〕
・NEXCO等タイアップキャンペーン
・キャンペーンブック「熊野詣指南書」の活用

など

和歌山へ招く ～ターゲットごとのプロモーションと大都市圏・海外からの誘客強化～

◇ターゲットごとのプロモーション展開

〔女性をターゲットにしたプログラムの推進、修学旅行や信用金庫業界の年金旅行、スポーツ合宿の誘致促進〕

◇マスメディアの活用

〔テレビや映画、雑誌などの取材や撮影の誘致〕

◇「ウェブを活用」した情報の発信

〔わかばんツイッターなどブログ等を活用したタイムリーできめ細かな情報発信〕

◇首都圏からの誘客

〔わかやまDCと連動した大型キャンペーンの実施〕

◇近畿、東海、西日本からの誘客

〔メディア、旅行会社、消費者向け3点セットの複合プロモーションの実施〕

◇海外からの誘客を強化

〔東アジア、東南アジア、欧米豪からの誘客、国際チャーター便等の誘致〕

など

和歌山を売り出す ～トレンドへの対応と新たな魅力の創造～

◇「世界遺産」で売り出す

〔「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン3つ星」のブランド力活用PR、熊野古道健康トレッキングや高野・熊野夢舞台コンサート、世界遺産登録10周年記念事業の実施〕

◇「温泉」で売り出す

〔美人、古湯、世界遺産の湯など温泉ブランドの展開〕

◇「ほんまもん体験」で売り出す

〔「絶対いきたいくなる体験プログラム」づくりの推進、積極的なメディア展開〕

◇「食の魅力」で売り出す

〔「健康わかやまを食べに行こう！」プログラムの推進〕

◇歴史・浪漫で売り出す

〔和歌山、紀北「いのりとみのりの旅」の推進〕

◇「自然の素晴らしさ」で売り出す

〔山・海・川の魅力を楽しめるサイクリングでの誘客を促進〕

◇「ブランド」で売り出す

〔駅長「たま」や「5頭のバンダ」による誘客〕

など

和歌山でもてなす ～おもてなしの宿づくり・ひとづくり支援～

◇「わかやまおもてなし宣言」でもてなす

〔「わかやまおもてなし宣言」の取組推進〕

◇和歌山おもてなしトイレ大作戦

〔観光地等への洋式トイレの導入、温水洗浄便座等の設置推進〕

◇和歌山おもてなしタクシー大作戦

〔全ドライバーと全事業者に接客・接客研修を実施し、優良ドライバーに称号付与〕

◇観光関係者等の接客・接客力の向上

〔観光関係者を対象とした研修の実施〕

◇外国人観光客に対応した環境整備

〔観光地へのWi-Fi環境の整備、県版通訳ガイドの認定・活用等〕

◆案内表示等の外国語表記の推進

〔外国人旅行者の利便性向上のための案内標示物等の外国語表記の推進〕

◆免税店拡充による外国人旅行者のショッピングの魅力向上

〔外国人客の土産物が全品目消費税免税となることを受け県内免税店を拡充〕

など

わかやま観光リレーキャンペーン

平成26年度：109,000千円
(85,000千円)

連続するビッグイベントを最大限に活用した誘客キャンペーンを切れ目なく展開

25
年度

伊勢神宮式年遷宮

26
年度

世界遺産登録10周年を契機とした誘客対策を継続的に実施

- 3大都市圏における「紀伊山地の霊場と参詣道」登録10周年記念事業(7~8月)
首都圏などのメディアや旅行会社等に世界遺産登録地域の魅力を積極的にPR
- 全国世界遺産観光地サミット(9月)
国内の関係者が高野山で一同に会し、世界遺産を活用した観光振興の推進について提案や人的交流を行う
- 登録10周年記念参詣道環境保全トレッキング(9~12月)
開催場所 高野山町石道、熊野古道中辺路・紀伊路
- 「和歌山デスティネーションキャンペーン」の展開(9月14日~12月13日開催)
「和み、和らぐ。和歌山からはじまる旅。」
全国1,100箇所のJR主要駅全てに5連貼ポスターを掲出し、誘客 など
- 『高野山開創1200年』誘客キャンペーン
JR東海、南海電鉄等とのタイアップキャンペーン など

27
年度

高野山開創1200年

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会

和歌山おもてなしトイレ大作戦

平成26年度：855,678千円
(153,570千円)

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会開催に向けて 「和歌山おもてなしトイレ大作戦」を加速化

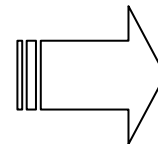
- 洋式トイレの導入
- 温水洗浄便座の設置
- 小便器の洗浄操作のセンサー化
- オストメイト対応設備の設置

公共施設

- 市町村(公の施設)や公共交通機関のトイレの整備を促進・助成
- 体育施設・自然公園など県有施設のトイレの整備を推進

☆ 平成26年度中の整備完了をめざす (651件を整備予定)

平成25年度実績 233件



平成26年度予定 418件

民間施設

宿泊施設・旅館・飲食店などに必要な資金を融資し、整備を説得

外国人旅行者等への「和歌山おもてなし力」の向上

<p>外国人旅行者の積極的な誘客</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トッププロモーションの実施や現地旅行博等への出展 ・現地に観光プロモーターを設置〔㉔～香港・台湾・韓国 ㉕～タイ〕 ・国際チャーター便の誘致 ・海外からの民泊・体験学習を取り入れた教育旅行を誘致〔台湾 マレーシアなど〕 ・外国語ウェブサイトやガイドブックの多言語化により情報発信力を強化 など
<p>和歌山おもてなしトイレ大作戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で観光地等への洋式トイレや温水洗浄便座などを設置 〔25年度実績 233件 26年度予定 418件〕
<p>和歌山おもてなしタクシー大作戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ドライバー(約1700人)、全事業者に接客・接遇講習会を開催し、登録 ・おもてなし力維持のためドライバーへの継続的な見守りを実施 ・優良ドライバーには「称号」を付与
<p>案内表示等の外国語表記の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・官民様々な事業主体に対し、道路、公共交通機関、公園、観光地などの案内表示等への「正しい」外国語を表記するよう推進
<p>免税店の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年10月から外国人旅行者が土産物として購入した全品目が消費税免税となることから、事業者には制度を周知し、免税店開設を促進
<p>県版通訳ガイドの認定・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有償で高野・熊野地域を案内できる特区通訳案内士を養成(25年12月現在 59人)し、世界遺産エリアの魅力を外国人旅行者にわかりやすくガイドできる体制を構築

『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

- ・金額単位のないものは千円単位
- ・()内は昨年度当初予算額

3 農林水産業の競争力強化

①強みのある農林水産物づくり

◆和歌山版農地活用総合支援 34,522(-)

[新たに設置する農地中間管理機構を活用した農地の流動化を促進するため、JAが中心となった推進体制を整備]

◆野菜花き産地総合支援 183,117(-)

[収益性向上のための施設整備や消費拡大活動などの取組を総合的に支援]

◇果樹産地の生産・集荷体制の強化 611,132(60,843)

[オリジナル品種や優良品種への改植、園内道や園地の整備、選果機や集出荷施設などの共同利用施設の整備を支援]

◇農林水産業競争力アップ技術開発 62,411(62,140)

[生産者の所得向上や地域の活性化に向けた実用技術開発を加速化]

◇6次産業化ネットワーク活動推進 68,534(20,000)

[農林漁業者が食品事業者や流通・販売業者等と取り組む新商品開発や販路開拓、加工・販売施設の整備等を総合的に支援]

◆梅酒の人工酸味料添加判別法等の委託研究 5,133(-)

[青うめの需要拡大を図るため、人工酸味料添加梅酒の判別方法や機能性成分量の違いを研究]

◆畜産を活用した資源エコループの推進 10,189(-)

[畜産経営の強化と資源の循環を図るため、良質堆肥の生産や利用拡大、食品残さを飼料化したエコフィードの活用を総合的に支援]

②多様な担い手の確保と育成

◇新規就農者の育成 496,861(365,180)

[トレーニングファームの運営支援や青年就農給付金により、青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を促進]

③農作物被害対策の推進

◇農作物鳥獣害防止総合対策 399,691(485,472)

[有害鳥獣の捕獲対策を推進するとともに、狩猟者の育成を強化]

◇ウメ、モモ等の重要病害ウイルス侵入防止対策 6,910(7,080)

[県内産のウメ、モモ等の安全性を確保するため、県内全域の継続調査を実施]

④攻めの販売促進

◇国内販路開拓の推進 48,479(51,383)

[国内展示会でのマッチングや百貨店等とのタイアップ、高級レストラン等外食産業との連携により、プレミアム和歌山をはじめとする県産品の認知度向上と新たな販路拡大を推進]

◇海外市場開拓による輸出の促進 18,275(17,234)

[海外見本市への出展や、海外百貨店での県産品フェア等、海外の販路拡大に向けた取組を強化]

◇県産品のブランド化推進 31,700(29,700)

[大手企業とのコラボレーションやJAとの協働PR等により、県産食材の「おいしい！健康わかやま」のブランドイメージを全国に発信]

◇品質保証を軸としたわかやまジビエの消費拡大 2,879(1,534)

[認証制度による高品質ジビエの提供やジビエウィークの開催等により、わかやまジビエの認知度を向上させ消費と流通を拡大]

⑤森林と林業の再生

◇低コスト林業の推進 111,798(250,200)

[高性能林業機械の導入や新たな架線集材システムの普及、作業道の整備を支援]

◇紀州材の需要拡大 408,766(232,840)

[公共建築物や住宅への利用促進や県外への販路拡大などの取組を支援]

◆ごまさんブナ林再生プロジェクト 15,000(-)

[防獣ネット設置や植栽などの保全活動により、貴重な森林資源であるブナ林を再生]

⑥水産業の活性化

◆主要漁業の再編整備 17,260(-)

[小型機船底びき網漁業の減船による資源管理に取り組む漁業者団体を支援]

◇水産基盤強化 284,314(284,606)

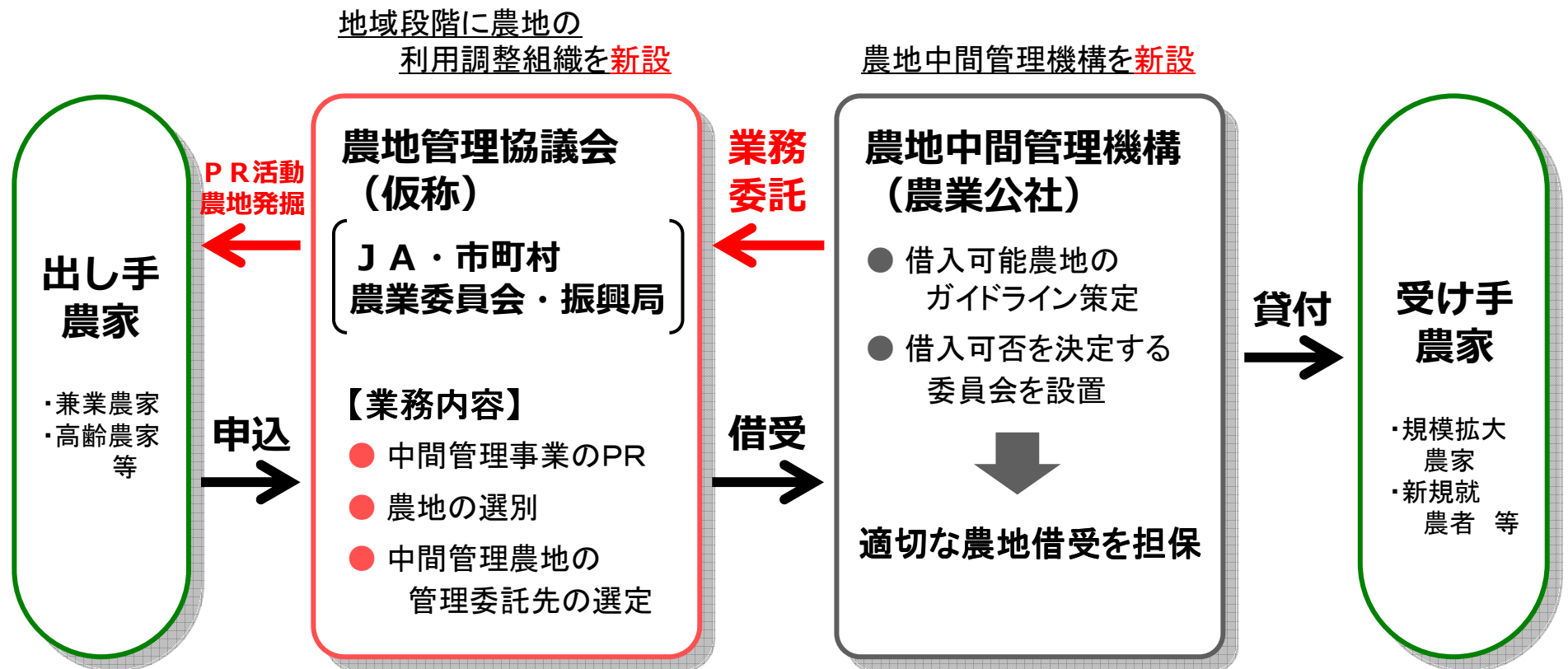
[水産資源の生産力向上に資する表層型浮魚礁の整備を推進]

和歌山版農地活用総合支援

平成26年度：34,522千円
(新規)

農地の流動化を推進するため農地中間管理機構を設置するとともに、
J Aが主体となった農地流動化の仕組み構築

和歌山版農地流動化の仕組み



野菜花き産地総合支援

平成26年度：183,117千円
(新規)

収益性向上のための施設整備や消費拡大活動を総合的に支援することで、
野菜花き産地の拡大や活性化を推進

JAが策定する産地構造計画に基づき、ハード事業・ソフト事業を総合的に支援

- ・事業主体：JA、出荷団体、協議会等
- ・事業期間：2カ年以内
- ・補助限度額：10,000千円(省エネ、ハウス導入を含む場合25,000千円)

対策	ハード事業	補助率	ソフト事業	補助率
省エネ	循環送風機、多重カーテン、ヒートポンプ、 廃熱回収機、エコフィン、 ダブルアーチハウス、 空気膜ハウス など	1/2以内(H26) (H27以降は1/3)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・展示圃設置 ・通いコンテナリース ・「母の日参りプロジェクト」 など消費拡大のためのPR 	1/2以内
高品質	遮光(遮熱)ネット、ミスト装置、高設栽培装置 パイプハウスの高度化 など	1/3以内		
省力・低コスト	播種機、育苗施設、定植機、収穫機 など			
流通	予冷・保冷库、選別機、袋詰め機 など 流通コスト低減・鮮度保持のための 集出荷機械設備			
複合経営産地育成	ハウスの導入			

※表中の赤字は新規補助対象メニュー

梅酒の人工酸味料添加判別法等の委託研究

平成26年度：5,133千円
(新規)

青うめの需要拡大を図るため、人工酸味料を添加した梅酒の判別方法や機能性成分量の違いを研究し、人工酸味料無添加の梅酒の消費拡大を促進

- ・うめと糖類、アルコール類のみで造られた梅酒
 - ・うめ由来でない人工酸味料等を添加して造られた梅酒
- いずれも「梅酒」と表示

→ 消費者の誤認を避けるため、国に対し表示基準の策定を要望(平成25年6月)

人工酸味料添加判別方法の開発

- 安定同位体元素比測装置を使い、2種類の梅酒を判別

うめ(C3植物)とトウモロコシ(C4植物)の安定同位元素の比率の違いを利用して、人工酸味料(クエン酸)の原料を特定(人工酸味料の原料は、トウモロコシ由来が安価なためほとんどを占める)

- 委託先：(独)酒類総合研究所

表示基準違反を抑止

機能性成分含有量の比較

- 梅酒に含まれる機能性成分量について調査

分析対象成分：カリウム、ポリフェノール 等
分析手法：原子吸光分析、液体クロマトグラフィー

- 分析機関：県工業技術センター

人工酸味料無添加梅酒のPRに活用

畜産を活用した資源エコループの推進

平成26年度：10,189千円
(新規)

梅調味廃液や食品残さ、家畜排せつ物などの未利用資源を活用した資源エコループ
(農業エコループ、食品産業エコループ) 構築への取組を総合的に支援

農業エコループの推進

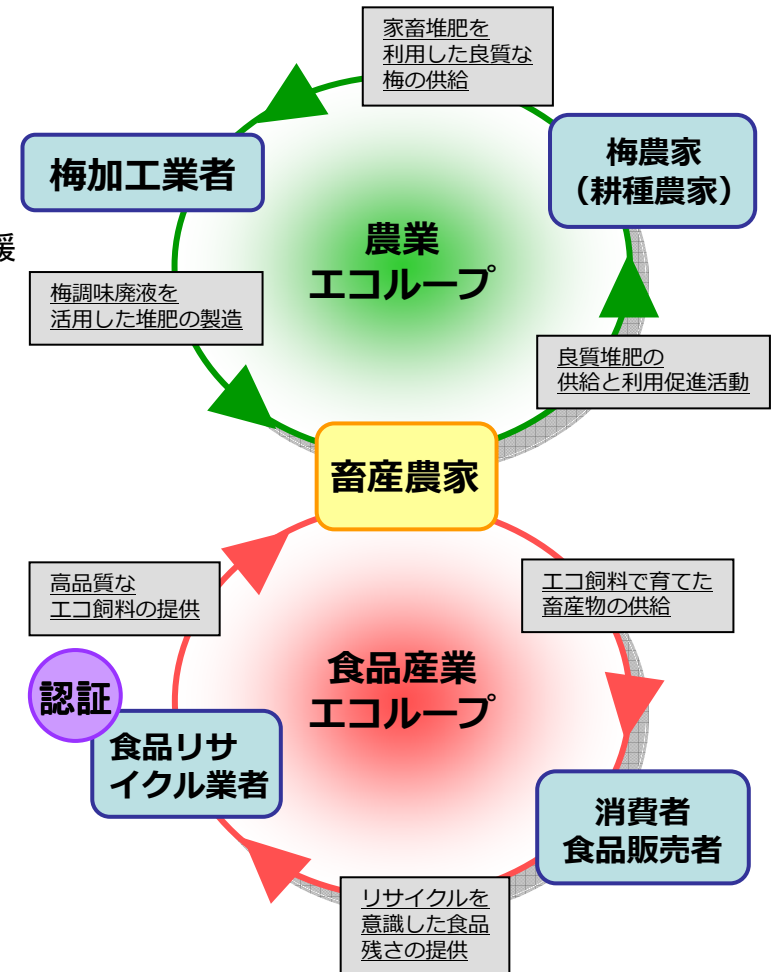
梅調味廃液を利用した良質堆肥の生産と悪臭対策を推進

- 良質堆肥生産支援
・梅調味廃液を利用した悪臭低減堆肥の生産や堆肥実証農場の設置を支援
- 畜産環境保全対策
・家畜ふん尿処理施設の整備支援や臭気対策などの環境保全指導を強化
- 堆肥の利用推進
・堆肥利用の普及活動を推進

食品産業エコループの推進

エコフィードを利用した環境にやさしい畜産経営の推進

- エコフィードの活用推進
・食品販売業者や畜産農家への制度周知や利活用研修会を実施
- 飼料分析支援
・(社)日本科学飼料協会によるエコフィード認証の取得をめざす飼料製造業者に対して認証取得に必要な飼料分析費用を支援
- 畜産物分析支援
・エコフィードを利用した畜産物の品質を確認するための分析費用を支援



農作物鳥獣害防止総合対策

平成26年度：399,691千円
(485,472千円)

野生鳥獣による被害を減少させるため、捕獲、防護、環境整備を総合的に推進

捕獲の強化

- 有害鳥獣の捕獲支援
 - ・市町村主体のイノシシ、サル、シカ、アライグマの捕獲や県保護管理計画に基づく捕獲を強化
- ◎ **新しい捕獲技術の普及【拡充】**
 - ・遠隔操作や頭数の自動カウント装置(かぞえもん)など、新しい技術を用いた捕獲罠の導入と実証
- ◎ **緊急対策(ムクドリ等)【新規】**
 - ・散弾銃や空気銃を用いてムクドリの有害捕獲を実施
- ◎ **狩猟者の捕獲訓練支援【拡充】**
 - ・安全な狩猟を推進するため、射撃訓練施設の利用を助成
- 狩猟者育成確保
 - ・狩猟者のイメージアップ活動や狩猟免許の取得を支援

防護・環境整備の推進

- 防護柵設置支援
 - ・2戸以内の小規模農地に対しても、防護柵の設置費用を補助
- 地域での自主的な取組を推進
 - ・地域協議会での研修や啓発活動を支援
- 獣肉処理機器の整備支援
 - ・旅館やホテル、レストランでのイノシシ、シカの食肉利用を促進

【全体の捕獲目標】

シカ	約7,100頭	イノシシ	約11,500頭
サル	約2,000頭	アライグマ	約2,000頭

合計：約22,600頭

ごまさんブナ林再生プロジェクト

平成26年度：15,000千円
(新規)

○ 現状

護摩壇山森林公園のブナ林は、近年シカ等による林内下層植生の食害が深刻化
→ 表層の栄養分が流亡し、「**ブナ林の循環サイクル**」への悪影響が懸念

○ 事業内容

天然林の 保全

- ◆ 傾斜が急な箇所に丸太筋工を設置し、土壌の浸食を防止
- ◆ 自然萌芽した苗木を保護し、確実に更新するため、ブナ母樹の周囲をネットで保護

天然林化 の推進

- ◆ 周辺人工林を強度間伐し、天然林化
- ◆ ミズナラ等広葉樹の苗木を植栽し、針広混交林化(将来天然林へ)

県民参加の 保全活動

- ◆ 護摩壇山森林公園における現地勉強会の実施
- ◆ ミズナラ等苗木育成(公園内で採取した種子から苗木を育て、再び公園に植栽)

ブナ林を再生し
後世へ守り継ぐ

主要漁業の再編整備

漁業経営の安定化を図るため、小型機船底びき網漁業について、減船による資源管理を支援

● 小型機船底びき網漁業の現状

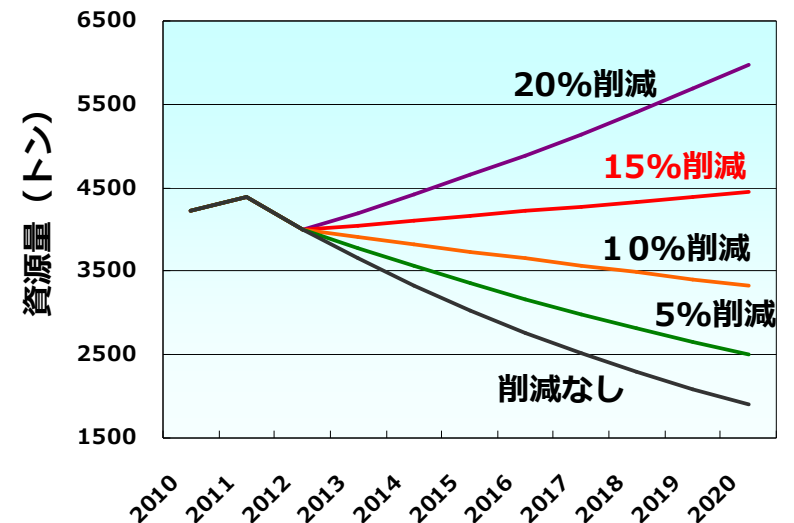
- 小型機船底びき網漁業の漁獲量はピーク時の約 **1 / 6**
(ピーク時：S53 15,722トﾝ → H22 2,364トﾝ)
- 対象魚であるタチウオの漁獲量はピーク時の約 **1 / 10**
(ピーク時：S47 11,760トﾝ → H22 1,068トﾝ)

資源の減少が深刻化

漁獲努力量の **15%削減** により資源維持が可能

〔 漁獲努力量：漁獲対象物を漁獲するために投入される資本、労働等の投入量
具体的には漁船の隻数、漁具数、操業回数(日数)等で表す 〕

漁獲努力量の削減効果 (タチウオ資源量に対して)



● 減船による資源管理の推進

■ 事業計画

3年で約**15%の減船**(232隻→202隻以下)することで、資源の減少を抑制

■ 事業内容

減船により資源管理に取り組む漁業者団体に対し経費の一部を補助

『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

4 魅力ある地域づくり

①中心市街地を核とした都市の再生

◆都市空間の再構築戦略の推進 10,000(-)

[ターミナル駅や県庁周辺地域の再開発などエリアの活性化に向けた調査や都市計画の見直しに向けた土地利用案の策定・提案を県主導で実施]

◇都市内道路の整備推進 15.4億円(19.1億円)

[中心市街地の利便性を向上させる道路の整備]

②地域の魅力を活かした元気づくり

◇南紀熊野ジオパークの推進 27,673(35,217)

[平成26年度中の日本ジオパーク認定に向けた調査保全活動や教育的活用、観光振興のための環境整備を実施]

◆『まちなみの駅』の設置 31,350(-)

[魅力のある町並みを持つ地域の県道沿いに簡易な休憩施設を設置]

◇自転車利用環境の整備 251,900(5,250)

[地域の魅力を楽しめる広域的なサイクリングロードや安全性を備えた都市部の自転車通行空間等を整備]

◇わがまち元気プロジェクト支援 20,000(20,828)

[農産物等の地域資源やスポーツを活用した地域づくりプロジェクトを推進する市町村を支援]

◇良好な景観の保全と形成 6,532(2,890)

[新たな特定景観形成地域の指定に向けた取組や景観条例、景観支障防止条例などにより、住民参画による個性豊かな景観づくりを推進]

◇名所・景勝地の魅力づくり 4,000(58,000)

[市町村が地元住民等と協働して行う名所・景勝地の魅力を向上させる事業を支援(日高町:産湯海水浴場周辺地区)]

③活気のある農山漁村づくり

〈農山漁村の活性化〉

◇都市と農村の交流による地域の活性化 13.6億円(4.0億円)

[農業体験施設や直売施設の整備、農家民泊の開設などを支援]

◇住みよい山村集落総合対策の推進 56,698(48,489)

[山村資源を活用した地域産業づくりや生活基盤の整備等を支援]

◆農業・農村の多面的機能の維持 186,737(-)

[国土保全や水源かん養、景観形成等、農業・農村が有する様々な機能を維持するための共同活動を支援]

◇品質保証を軸としたわかやまジビエの消費拡大 2,879(1,534)〈再掲〉

[認証制度による高品質ジビエの提供やジビエウィークの開催等により、わかやまジビエの認知度を向上させ消費と流通を拡大]

◇過疎集落再生・活性化支援 50,000(50,000)

[過疎生活圏単位での日常生活機能の確保や地域活性化を図る総合的な取組を支援]

◇移住交流の促進 28,075(28,871)

[田舎暮らしの情報発信、地域資源を活用した起業や一次産業への就業支援、空き家活用による住家の確保など移住交流を促進]

◇「企業の森」、「企業のふるさと」の促進

[森林環境保全や農産物づくり等の企業の社会貢献活動を通じた地域との交流を促進]

〈生活基盤の整備〉

◇公共交通の維持・活性化 241,974(254,549)

[日常生活に不可欠なバス路線の維持確保等を支援]

◇携帯電話不感エリアの解消 49,772(51,766)

[携帯電話用鉄塔施設整備を行う市町村を支援]

◇へき地医療対策の推進 149,588(157,922)

[へき地医療機関の運営等を支援]

都市空間の再構築戦略の推進

平成26年度：10,000千円
(新規)

暮らしやすい都市空間を構築するため、総合的なまちづくりを
県が提案

都市再生の推進

ターミナル駅や県庁周辺地域の再開発
などエリアの活性化に向けた調査を
県が実施

- ・ 中心市街地の活性化
- ・ 遊休不動産の活用
- ・ にぎわいの創出

計画的なまちづくりの促進

市町と連携し都市計画の見直しに向けた
土地利用案を県主導で策定・提案

- ・ 都市の無秩序な拡大
- ・ 店舗、工場、住宅が無秩序に混在
- ・ ミニ開発の乱発による農地分散

STOP

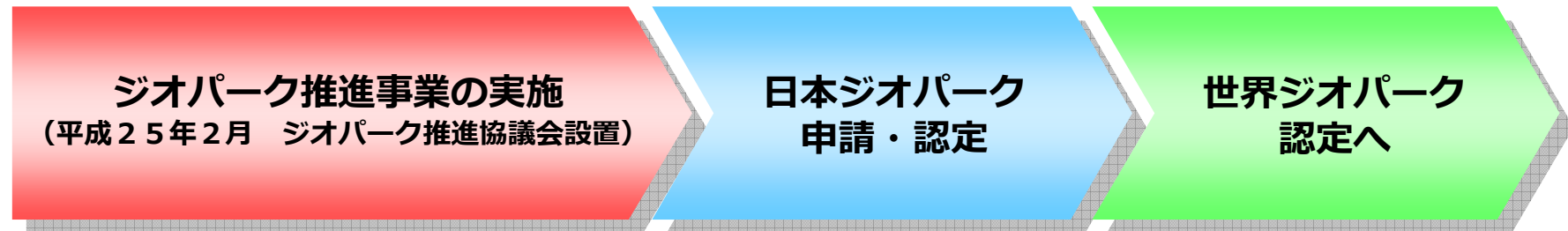
南紀熊野ジオパークの推進

平成26年度：27,673千円
(35,217千円)

平成26年度の日本ジオパーク認定に向けた取組を推進

平成26年度

平成27年度～



事業内容

- 調査研究保全
- 普及啓発
チラシ・マップ・ガイドブック等の作成、講演会やシンポジウムの開催
- 教育・学習
(新)ジオパーク副読本の作成、(新)ジオパーク検定
- 観光振興
ジオツアー開催、ジオパークガイドの養成、
(新)ジオサイト説明板の設置

南紀熊野ジオパーク構想地域

新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、
那智勝浦町、太地町、古座川町、
北山村、串本町のエリア



『まちなみの駅』の設置

平成26年度：31,350千円
(新規)

魅力のある町並みを持つ地域の県道沿いに、簡易な休憩施設として『まちなみの駅』を設置

【道路管理者】

- ・道路利用者の休憩施設が必要

【町並み地域】

- ・地域への誘客が課題
- ・「道の駅」のような物販施設までは必要ない

まちなみの駅

道路管理者（県）が整備

<設置施設>

- ・駐車場 ・トイレ
- ・地域住民が主体的に情報提供できる施設等

<候補地>

- ・地域住民が主体となって伝統的なまちづくりに取り組んでいる地域等

自転車利用環境の整備

平成26年度：251,900千円
(5,250千円)

地域の魅力を楽しみながらの観光や健康づくりを促進するため、利便性や安全性を備えた自転車利用環境を整備

サイクリングロードの整備

川、山、海のサイクリングロードの整備

- ・ 自転車通行帯
- ・ 案内標識、総合案内板、休憩施設等



都市部の自転車走行空間の整備

自転車利用の多い施設を結ぶ 自転車ネットワークの整備

- ・ 自転車通行帯
- ・ 案内標識、駐輪施設等



『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

5 成長を支える社会インフラ等の整備

①幹線道路ネットワークの整備

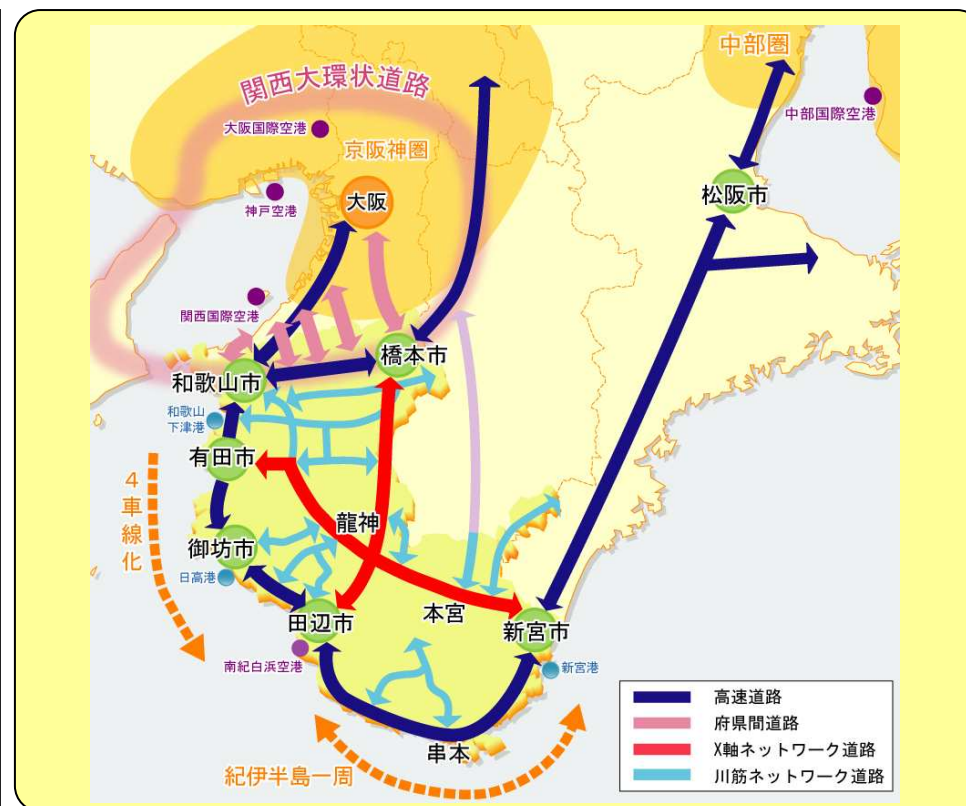
- ◇高速道路ネットワーク 114.4億円(104.2億円)〈再掲〉
 - ・国直轄で施工する近畿自動車道紀勢線や京奈和自動車道、県内の直轄国道の改良などに要する県負担金
- ◇高速道路を補完する幹線ネットワーク道路 183.9億円(153.9億円)〈再掲〉
 - ・川筋ネットワーク道路やICアクセス道路の整備
- ◇府県間道路 12.1億円(23.1億円)〈再掲〉
 - ・大阪府及び近畿圏との交流、連携を強化する道路の整備
- ◇都市内道路 15.4億円(19.1億円)〈再掲〉
 - ・都市部の渋滞解消、交通の円滑化を図る都市計画道路の整備
- ◇基本的な生活に不可欠な道路 39.0億円(33.3億円)
 - ・高速道路ICから60分圏域拡大、生活圏30分圏域の拡大に資する道路の整備

②和歌山県の高速道路ネットワークの完成

- ◇高速道路の4車線化
 - ・有田－南紀田辺間の4車線化の早期完成
- ◇高速道路の延伸
 - ・すさみ－太地間、新宮－新宮北間の早期事業化

③将来の希望のプロジェクトの実現

- ◇紀淡海峡ルートの実現に向けた機運醸成
 - 〔現国土軸のリダンダンシーの確保と多軸型の強靱な国土の形成に資する紀淡海峡ルートの実現に向けた取組を実施〕
- ◇フリーゲージトレイン導入に向けた機運醸成
 - 〔紀勢本線の高速化に向け、フリーゲージトレインの導入の機運を醸成〕



紀淡海峡ルートの実現に向けた機運醸成



イメージ図

フリーゲージトレイン導入に向けた機運醸成



フリーゲージトレイン試験車両

『未来への投資』の政策

◆新規 ◇拡充

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

6 教育と文化の振興

①確かな学力の育成

- ◇きのくに学力向上総合支援 14,480(14,610)
〔学力到達度調査を行うとともに、小学校・中学校の国語、算数・数学の教員研修を充実〕
- ◆きのくに学力定着フォローアップ 6,747(-)
〔優れた教育実践力を持つ退職教員をアドバイザーとして派遣し、授業改善など学力向上に取り組む学校を支援〕
- ◇「ことばの力」向上プログラム 3,435(1,184)
〔確かな学力と豊かな心の基礎となることばの力向上のため、読書活動を推進〕
- ◇国際的に活躍できる人材の育成 24,196(14,500)
〔英語でのディベートやディスカッション等のコミュニケーション活動を重視した授業を実施〕
- ◇きのくに科学オリンピックの開催 2,896(2,170)
〔科学の甲子園予選会の開催などを通じて、科学に関心を持つ子どもを育成〕

②豊かな心と健やかな成長の支援

- ◇道徳教育の徹底
〔和歌山県独自作成の道徳教科書「心のとびら」と「希望へのかけはし」を活用し、学校での道徳教育を徹底〕
- ◇郷土教育の推進
〔「わかやま何でも帳」を活用したふるさと学習の充実〕
- ◇リレー式次世代健全育成 6,524(4,094)
〔市町村、青少年育成団体等が協力し、地域全体で青少年を育成するシステムを構築〕
- ◇若者の自立支援 40,404(42,415)
〔若者総合相談窓口With Youと地域若者サポートステーションを統合し、様々な悩みを抱える若者の相談体制を強化〕

- ◇いじめ対策総合推進 169,681(168,138)
〔スクールカウンセラー等の拡充や学校サポートチームによる支援を実施〕
- ◇子どもの体力向上支援 3,250(3,250)
〔体力テストのデータを活用し、競技指導を充実するとともに運動機会を拡大〕

③文化・芸術・スポーツの振興

- ◇文化・スポーツ振興への助成 30,242(30,270)
〔国際大会から草の根レベルまでの様々な取組を支援〕
- ◆空海シンポジウムの開催 6,982(-)
〔空海の業績を顕彰してシンポジウムを東京で開催〕
- ◆県立近代美術館、博物館、自然博物館、紀伊風土記の丘の機能強化
〔展示会・教育普及事業の充実や学芸員人事制度の見直し等により教育文化拠点としての機能を向上〕
- ◆^{いわせ}岩橋千塚古墳群の保存の推進 8,438(-)
〔特別史跡岩橋千塚古墳群に隣接する大型古墳を特別史跡に追加指定するための調査を実施〕
- ◆南方熊楠記念館の整備 34,589(-)
〔郷土文化への理解と文化の意識の向上のため南方熊楠記念館を再整備〕
- ◇旧県会議事堂の保存整備 681,959(326,608)
〔貴重な文化遺産である旧県会議事堂(岩出市)の保存整備を推進〕
- ◆マスターズスポーツの推進 13,465(-)
〔関西ワールドマスターズゲームズ2021の招致準備と、関西のスポーツ機運を醸成〕
- ◇市町村対抗ジュニア駅伝競争大会の開催 17,061(19,703)
- ◆全国高校総体ヨット競技の固定開催に向けた艇の整備支援 12,983(-)
〔全国高校総体ヨット競技に必要な420級などのヨットの整備を支援〕
- ◇セーリング関連施設の整備 252,310(294,490)
〔和歌山マリーナにディンギーハウス新棟などを整備〕
- ◇県立体育館の改修 327,126(-)
〔県民の健康と体力づくりの場である県立体育館の設備を更新〕

道徳教育の徹底

教育委員会 学校指導課

和歌山県独自作成の道徳の教科書を活用し、学校での道徳教育を徹底

和歌山県独自の道徳の教科書を作成

独自に作成した和歌山県ゆかりの偉大な先人の生き方や、いじめ、ネット問題に関する教材に加え、文部科学省が作成した教材から精選したもので編集

小学生用「心のとびら」

- 和歌山県にゆかりのある人物等

- ・保田龍門、クヌッセン機関長、井澤弥惣兵衛、小山肆成、石屋忠兵衛、西田修平
- ・紀州漆器

中学生用「希望へのかけはし」

- 和歌山県にゆかりのある人物等

- ・上山英一郎、華岡青洲、濱口梧陵、フレッド・和田勇
- ・父母状、エルトウールル号

「思いやり」「規範意識」「郷土愛」を学び、道徳性を高める

きのくに学力定着フォローアップ

平成26年度：6,747千円
(新規)

確かな学力を育成するため、「よくわかる」「力のつく」授業づくりを強化

現状

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果
国語、算数・数学の正答率が全国平均より低い

【小学校6年生】		正答率		【中学校3年生】		正答率	
国語A	：全国29位	全国平均	-0.3%	国語A	：全国44位	全国平均	-2.0%
国語B	：全国37位	全国平均	-1.9%	国語B	：全国45位	全国平均	-3.1%
算数A	：全国31位	全国平均	-0.8%	数学A	：全国24位	全国平均	-0.3%
算数B	：全国33位	全国平均	-1.5%	数学B	：全国31位	全国平均	-1.2%

- 学習につまずきが見られる児童生徒に対して、**全学校で補充学習を徹底**
- 教員の指導力強化のため、小学校（国語、算数）・中学校（数学）教員全員に**研修を実施**

さらなる教員の「教師力」の強化が必要

国語、算数・数学の優れた教育実践力を持つ退職教員を
アドバイザーとして選定（約30名）

授業改善、師範授業、教材開発へのアドバイス

<目標> 平成27年度調査で、本県児童生徒の学力が全国平均を上回る

若者の自立支援

平成26年度：40,404千円
(42,415千円)

若者の相談窓口を統合して、自立に向けた支援体制を強化

若者総合相談窓口 With You

- 若者が抱える様々な悩みや問題を幅広く受付け
 - 助言や専門的な支援機関への橋渡し
 - 県内1カ所(県庁内)
- (問題点)
遠方からの対面相談のニーズに対応できない

統合

地域若者サポートステーション (サポステ)

- 働くことに悩みを抱えている若者の職業的自立を支援
 - 職業スキルの養成や社会体験などのプログラムを実施
 - 県内3カ所(和歌山市、橋本市、田辺市)
- (問題点)
対象者が若年無業者に限定されている

若者サポートステーション With You (仮称)

- With Youとサポステを統合して一体的に運用
 - ・ 県内3カ所に若者の様々な悩みを相談できる窓口を設置(対面相談できる体制の整備)
 - ・ 就業だけでなく複数の問題を抱えている若者に対して、様々な専門機関と連携した総合的な支援を提供



平成26年度：6,982千円
(新規)

空海シンポジウムの開催

わが国に密教をもたらし、高野山に真言宗の総本山を開山した弘法大師空海の業績を広く全国に紹介するため、「空海シンポジウム」を東京で開催

シンポジウムの概要

開催時期 | 平成27年1月

開催場所 | 明治大学
駿河台キャンパス
(東京都千代田区)

内 容 | ■ プロローグ
■ 基調講演
■ パネルディスカッション



年 譜

宝亀9年(774)	讃岐国多度郡屏風浦(現:香川県善通寺市)で生まれる
延暦23年(804)	遣唐使の留学僧として難波の津を出帆
延暦24年(805)	青龍寺の恵果和尚に師事 伝法阿闍梨位の灌頂を受け、遍照金剛の灌頂名を与えられる
大同元年(806)	帰朝し、「御請来目録」を朝廷に提出
弘仁元年(810)	薬子の変に際し、高雄山寺にて鎮護国家のための大祈禱を行う
弘仁7年(816)	朝廷より高野山を賜る
弘仁14年(823)	太政官府より東寺を賜り、真言密教の道場とする
天長5年(828)	綜芸種智院を開設する
承和2年(835)	高野山にて入定

いわせ 岩橋千塚古墳群の保存の推進

平成26年度：8,438千円
(新規)

国内最大級の古墳群である岩橋千塚古墳群を保存するため、隣接する大型古墳の特別史跡追加指定に向けた調査を実施

岩橋千塚古墳群

現状

- ・現在、紀伊風土記の丘には約430基の古墳が国の特別史跡に指定され、保存・整備が行われている
- ・しかし、隣接の岩橋丘陵上とその周辺には未だ約400基近くの古墳があり、重要な首長級の大型古墳が史跡指定されておらず、早急に保存する必要がある

天王塚古墳や大谷山22号墳等、貴重な文化財を、将来に渡って保存していく必要

- 平成26年度
天王塚古墳・大谷山22号墳周辺の測量調査を実施
- 平成27年度以降～
追加指定



大谷山22号墳石室の入口

南方熊楠記念館の整備

平成26年度：34,589千円
(新規)

本県が生んだ世界的博物学者「南方熊楠」を顕彰する
南方熊楠記念館を再整備

事業の概要

名称：南方熊楠記念館新館建設
所在：西牟婁郡白浜町（番所山）
事業計画：平成26年度 基本設計、実施設計
平成27年度 建築工事
総事業費：約3億円

●3,000万円を目標に、全国から広く寄附を募る

○整備後は、番所山公園の中核施設として郷土文化への理解を促進

○年間6万人の入館者をめざす（現在：年間2万人）

○今後の予定

平成27年度 南方熊楠記念館開館50周年
平成28年度 南方熊楠没後75周年
平成29年度 南方熊楠生誕150周年

【南方熊楠記念館】



【歴史】

昭和37年 南紀行幸の際、昭和天皇が南方熊楠を偲んで歌を詠まれたため、神島も見える白浜町番所山に記念館建設の運動開始

○昭和天皇が詠まれた歌
「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし
南方熊楠を思ふ」

昭和40年 開館

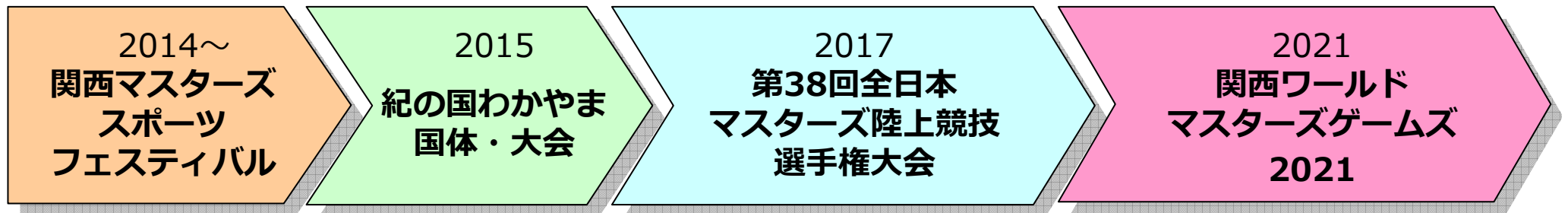
平成12年 入館者100万人達成

平成19年 南方熊楠生誕140周年記念特別展開催

マスターズスポーツの推進

平成26年度：13,465千円
(新規)

国体を契機としたスポーツ気運の盛り上がりをもつなげる



○関西マスターズスポーツフェスティバル

- ・関西各府県市ごとに開催している生涯スポーツ大会等を「関西マスターズスポーツフェスティバル」として、関西一丸となって盛り上げる

○第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会

- ・2017年に本県で開催が決定
- ・男性30歳以上、女性25歳以上の一般アスリートを対象

○関西ワールドマスターズゲームズ2021

- ・アジア地域で初開催
- ・30歳以上の成人・中高年の一般アスリートを対象とした生涯スポーツの国際総合競技大会